



■コース生 (第6期生) の活動報告



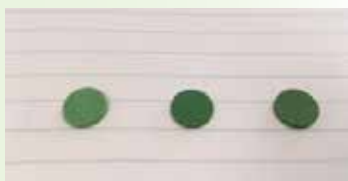
西尾 陽

総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士2年 (修士2年)

総合理工学府量子プロセス理工学専攻修士二年の西尾陽です。学士までは長崎大学に在籍していました。現所属には2017年4月に入学し、先導物質研究所の岡田研究室でリチウムイオン二次電池の研究に励んでいます。岡田先生はGA教員でもあり、研究だけでなく一貫性博士としてどう意識を持って過ごすべきかなど、日々熱のこもった指導をいただいております。

さて、私の期からGAへの入コース時期が4月となったため、間もなくGAコース生として1年半が経とうとしています。その中でも一番記憶に残っているのは、昨夏に行われたインドネシアでの実地演習です。現地の学生方と様々な産業を見学し、インドネシアならではの研究課題や、発展途上国ゆえの研究資料確保の難しさなどを目の当たりにしました。そのほかにもGAでは多くの授業が開講されています。国際法や経済学など、“理系”として進んできた私たちにとってほぼ無縁のことを学ぶのはとても大変に感じますが、そんな分野の中にも数学的ロジックが隠れていたりと、面白味を持って学んでいます。

これからGA修了まであと4年ですが、素晴らしい同期たちと切磋琢磨しながら共に高めたいと思います。



石橋 和也

総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士2年 (修士2年)

総合理工学府量子プロセス理工学専攻本庄・坂口研究室修士2年の石橋和也と申します。福岡大学理学部出身です。伊都キャンパスでの経験はないですが、適度に自然があって交通の便も良い筑紫キャンパスが一番好きなキャンパスです。主にこの筑紫地区に進められているGAプログラムでは、自身の研究以外に様々な経験が出来ます。例えば、主に学外の先生による環境学、社会学、経済学などの講義が各学期にあります。また、現在は研究室ローテーションを行っており、夏にはインターンシップがあります。これらに時間を費やす事は研究の妨げになり良くないとも考える方もいるかもしれませんが、大学卒業後に研究職に就いたとしても研究以外の仕事は多々あるため、GAプログラムで身につけた力がその助けになると考えています。現在は無事に修士課程を卒業し、博士課程に進学できるように研究や学業に専念中です。



上戸 あいら

総合理工学府
物質理工学
一貫制博士2年 (修士2年)

グリーンアジア第6期生、総合理工学府・物質理工学専攻の上戸あいらです。高分子材料物性学研究室に所属しており、天然高分子の有効利用や低エネルギー形成加工などの環境調和型高分子に関する研究を行っています。最近では、趣味の一環として小型の甲殻類の育成を楽しんでいます。今年度前半は、グリーンアジアコース特有の社会学的講座をいくつか受講しました。哲学やプロジェクトマネジメント学、環境政策学など、普段はあまり接する機会のない学問に触れ、新しい知識を得ることができました。また、十分に設けられたディスカッションやグループワークにより、様々な国の学生と意見を交換しながら、今までに出会ったことのない課題に取り組み、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

コース修了後は、化粧品メーカーへの就職を目指しています。また、単に専門分野の知識を持つだけでなく、社会や人にとって善い判断をできるように幅広い考え方を持つ人間になりたいと思います。そのため、興味・関心・好奇心を忘れずに、日々発見がある学生生活を送っていきたくです。



王 宇坤

総合理工学府
環境エネルギー工学
一貫制博士2年 (修士2年)

去年四月より、課程教育リーディングプログラム・グリーンアジア国際戦略プログラムのコース生となってから、いろいろな経験や、勉強することもできました。総合理工学府環境エネルギー工学専攻の王宇坤と申します。私は現在大気海洋環境システム学専攻の杉原研究室で沿岸海洋のローカルリモートセンシングと時空間環境情報の統合的評価に関する研究を行っています。本研究の目的は、ICTを活用した沿岸環境水理情報学の構築に資するローカルセンシング技術と時空間環境情報の統合化のための基盤技術を開発します。これらの基盤技術を融合し、環境情報をMGIS上で統合化することによって、有用な沿岸環境情報として可視化・発信するための沿岸海洋環境情報のプラットフォームデザインを提示できると思います。本研究では、ローカルリモートセンシングによって取得された画像データに着目して、機械学習・深層学習などの情報処理技術に基づいて、それらの高精度・高効率の解析手法を構築することを目指して、研究対象としては、沿岸地形、植物プランクトンなどの沿岸海洋生態系、波浪場、白波砕波による海象情報を想定しています。

GA終了した後は日本の企業の研究職に入るか、国の研究機関に入るか、それとも医学部に進学しますか、また決まっていますが、日本の科学技術の発展のために、自分の力を貢献したいと思います。

